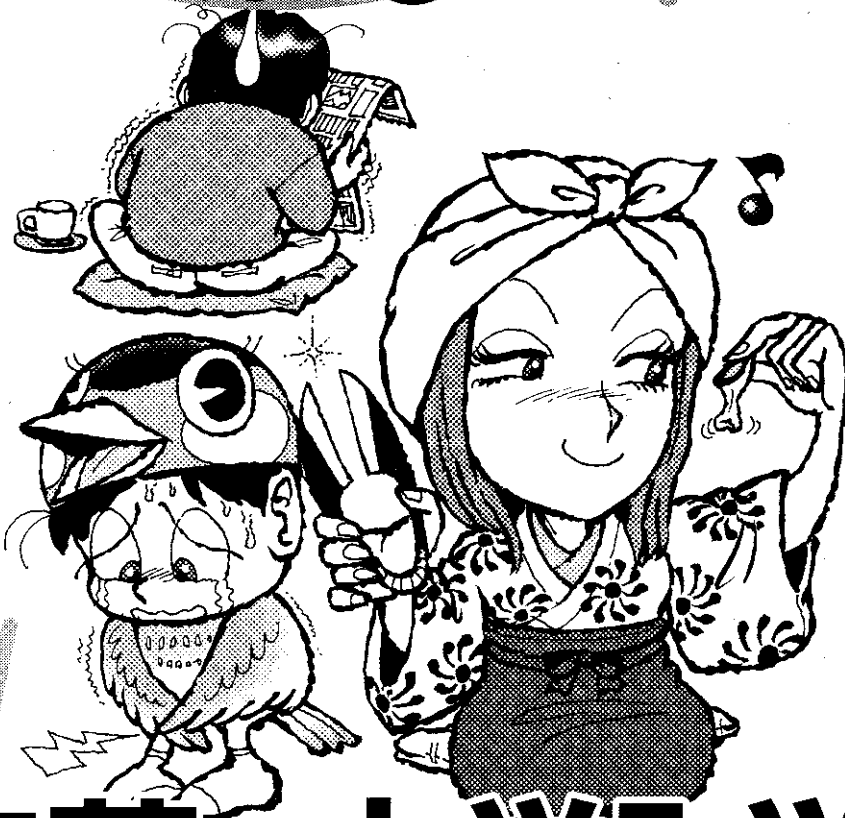


母親に広がる大不安

包莖に悩んだ経験を持つ男性は多いだろう。思春期、親にも友達にも相談できず、一人で考え込んだ記憶はありますか？ しかし今や、男の子を持つ母親が同じような悩みを抱えているのだ。意外と父親は当てにならず、実は医師の見解も一定ではない。

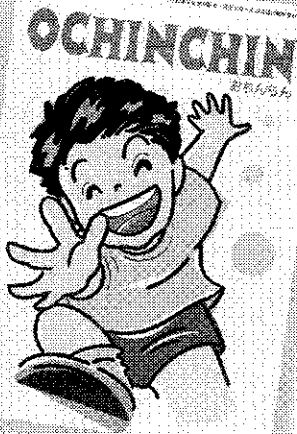


「包莖は小学入学前に手術すべき」ってホント!?

横浜市のある住宅街に住む主婦は、今は小学校に通う長男が幼稚園の年長児だったころの出来事を思い出す。サッカークラブの練習を見守る母親たちの間で、こんな会話が始まったのだった。
「今日は、うちの子のおチンチンにボールが当たらないでほしいわ」
「どうしたの？」

「実は病院で包莖を治してもらってきたのよ」
「包莖？ よくわからないけど、うちの子もむけていないような気が……」
「炎症を起こしたので病院で診てもらったら、皮を切る手術をしたほうがいいと言われたの。でも、手術は全身麻酔が必要だというから怖くて、ほかの医者に行ったら一気皮をむいて、それで大丈夫だって。皮がまた元に戻ることも多いけど、小学校へ上がる前にやっておいたほうがいいみたいですよ」
「そうなの？ うちには炎症を起こしていないけど、やっておこうかしら。一人だけ包莖で劣等感を持ってしまったらかわいそうだしね」

かくしてこの母親の子供は数日後、仲の良い友達と2人で泌尿器科へ連れていかれたのだ。母親と看護婦たちに手足を押しえつけられるなか、悲鳴とともに皮をむかれたそうだ。
この住宅街にある病院では、幼児期の包莖手術を勧められているらしいのだが、近くにある



昭和大学横浜市北部病院でも同じような見解を持つている。泌尿器科の佐々木春明講師は言う。

「はい、手術をしたほうがいいと診察した場合には、できるだけ早い時期を勧めていきます。小学生になるとなかなかまとまった休みが取りにくくなるので、入学前にすませておいたほうがいいですね。それから、小学生にもなるとお互いにおチンチンを見せ合ったり、学校やクラブでの宿泊も始まり、自分だけが違って傷つくこともある。機会を逃して高学年になると、もう思春期で、コンプレックスとなりますからね」

小学校入学前に包茎の手術？ もしかしてこれって現代版「割礼」？ 生後数日内に包皮を切り取る割礼は、ユ

ダヤ教、イスラム教などの宗教的通過儀礼として行われ、米国では習慣的に行われているというが、日本ではあまりなじみがない。

子供の包茎手術は全身麻酔で行われ、2泊3日くらい入院する。さらに消毒のための通院などを考えると1週間くらいがめどとなる。

手術代は、大人の仮性包茎だと保険がきかないので10万円から20万円くらいだが、真性包茎は保険がきいて数万円。子供の場合、自治体ではらつきがあるが、幼児ならタダでできるところもあるという。

さらに、大人だと手術から2、3日は痛みが残るが、小さな子供なら、手術当日でも遊び始めると痛みを忘れてしまうそうだ。

佐々木講師はこうも話す。「それにしても、子供の包茎を気にするお母さんは増えていきますね。私が医者になった16年前には全然いなかったのに、1カ月で平均数人は相談に来ます。横浜では3歳

児健診で包茎をチェックするので、その直後は特に多いですね」

子供のおチンチン問題に悩む母親は実に多い。自分になんかよくわからないことあるのだろう、インターネットでは育児相談の掲示板で、悩める母親の告白が飛び交っている。例えば、こんな感じだ。

「真性包茎で手術が必要なはずと思い、ものすごく心配しています。むいてみたら尿路感染症で39度5分の熱が出てしまいました。気にしすぎたなあと反省しました」(9カ月の男児の母親)

「むいて洗いましょうとよく言われますが、力加減のわからないお母さんが、無理にむくのは危険です。友達の話ですが、むいていたら突然痛がり始めて泣くので、救急外来で診てもらったら、とても怒られたそうです。無理に皮をむいて、まるで輪ゴムをおチンチンの先にきゅーっと締められた状態で、このままにしていたら血が通わなくなつて危なかったと」(3歳児の母親)

おチンチンと悪戦苦闘する

母親たちの姿が浮かび上がってくる。そこで頼りになるのが、同じモノを持つ父親だ。しかし、たいていの父親は自分の「過去」はあまり明かさずに、「そんなの放っておけばいいよ」などと言うのではなからうか。これではわが子の未知の部分心配する母親たちの悩みは、なかなか解消しない。

手術するか否か 意見は真つ二つ

ここでお母さん方のために簡単に基本的な説明をしておこう。

まず、子供は最初みんな包茎なのだ。先端の龟头部を皮が包んでいる。包皮の先端の穴から龟头部がすべて出ると包茎でなくなる。普通は成長するにつれてむけてくるのだが、包皮の穴が狭かったり、内側が龟头部とくっついていたり、むけない。皮をどんなにずらしても龟头部の見えない状態が真性包茎で、手でずらすとすべてむけるのを仮性包茎という。もちろん少しは

むけるが全部はだめ、という途中の状態もある。

包皮の穴が狭いのに無理やりむいて戻さないと、先ほどの輪ゴム状態となってしまう。真性だと皮の内側が汚れて炎症になりやすく、あまりに穴が小さいとおしっこが出にくくなる。医学的には、こうした包茎で、おチンチンの清潔が保てないことが問題なのだが、実はその処置の方針が医師や病院によって大きく違っているのだ。

東京女子医科大学の山崎雄一郎教授が01年の日本小児泌尿器科学会総会で行ったアンケートによると、意見はほぼ真つ二つに分かれている。子供の包茎には「手術が不要」と答えた医師は52%。手などで完全に包皮がむけないときは必要という意見など「手術すべき」は47%だった。むけるように指導すべきかについては、「すべき」「不要」とも48%だった。これでは母親の悩みは深まるばかりだ。手術に積極的な大阪医科大学の勝岡洋治教授は言う。「米国で生まれた自分の息子

は割礼を受けたが、思春期に大きな悩みを持たなくてすんだ。この点では親の務めを果たせたと思っている。包皮をむくのは痛く、子供に病院嫌いと、大げさに言えば心的外傷後ストレス障害(P.T.S.D)を招く危惧がある。記憶に残らない年齢で、手術してあげたほうがいい」

愛媛県今治市の日浅産婦人科医院では、親の希望を聞いて、新生児の9割以上に「割礼」を施しているという。日浅教授は言う。

「一つの理由は清潔さを保つためです。赤ちゃんはみんな真性包茎ですが、2人に1人は亀頭包皮炎を起こす。赤ちゃんのときに処置しておけば、そういう煩わしさはなくなるでしょう。重症の包茎の子には必ず処置し、そうでない子供にも勧めています。うちで生まれた男の子で、包茎のトランプルを抱える子はいません」

対照的に「とにかく手術は絶対いらない」と言うのは、神奈川県立厚木病院泌尿器科の岩室紳也医長だ。共著「ま

ちがいたらだけの包茎知識」(青弓社)や小冊子「OCHIN CHIN」(日本家族計画協会)、ホームページなどで積極的に主張している。

「実は私、以前は包茎手術が得意な医者だったんです。無批判に教えられたまま手術をしていたのですが、あるときふと、本当に手術は必要なのか、と思ひまして。手術を受けた結果、自分のおチンチンは友達と違う、と登園拒否になった園児を診察してショックだったのと、自分自身が仮性包茎なのに何の支障もありませんでしたから。清潔にしていれば、何の問題もありません」

正直な人だ。岩室医長は、どんなおチンチンでも手術なしで100%むいてみせる、という。

りと同じようにふいてあげればいいのです。ほかに3、4歳児を中心に、千人の子供がみんなむけました。私の意見は極端なので反対する声も多いのですが、手術はいらないと考える医師は少しずつ増えているはずですよ」

包茎の偏見強く 母親の不安増長

一方「基本的には思春期までに自然とむけるのを待つ」という「放置派」もいる。

「こどもの包茎相談室」(近代文芸社)を書いた聖マリアナ医科大学泌尿器科学教室の高橋剛教授は言う。

「日本人の75%は思春期までにむけるんです。無理にむいてしまふ医者もいるようですが、ちゃんとケアをしないと再びくっついたりする。むくには反対です」

しかし、なぜこんなに医師の見解が異なるのか。高橋教授が続ける。

「日本では、こもかぶり、とか言われて包茎は偏見を持たれているので、恥ずかしがって受診する人が少なく、医学界でまともな議論にならない。思春期の男性の大きな悩みであるが、病気ではなく命に直接関係ないということもあります。私は2年ほど前から授業で扱っていますが、それまでは医学部で包茎のことを学ぶことはなかった。医師になつてから、自分で情報を集めたり、先輩から教わって対処しているため、バラバラになつたのでしょうか。しかし、最近は学会内でも急速に関心が高まり、全国レベルで一定の指針を設けよう、という動きも始めています」

それにしても、子供の包茎は昔からそれほど変わっていないはずなのに、なぜ最近になって母親の悩み事になってきたのか。高橋教授は社会環境の変化を指摘する。

「一つは少子化のため、子供にかまひすぎる傾向はあると思います。さらに核家族化でおいしいさん、おばあさんに相談できない。子供は包茎が当

たり前なのに、医師が健診で言葉足らずに伝えてしまうこともある。そうすると、包茎にコンプレックスを感じさせるような広告が氾濫している。母親は不安が広がってしまふわけです。人と違っていることを嫌う、日本的な考え方も影響していると思います」

子育てに関する数多くの著書がある小児科医の毛利子来氏は言う。

「目が行き届きすぎてしまうのでしょうか。おしっこが出にくいなど対処が必要な包茎でなければ、放っておけばいいですよ。現代の日本は清潔病、ばい菌恐怖病で、人間を弱くするような気がしますね。体もそうだし、精神的にも。子供のために心配しているようで、実は母親は、心配するのを我慢できなくなった自分のためにしているんです。不自然な気がしますね」

本誌・松本行弘